

■英国：断念されていたウェールズ南部の潮汐発電開発計画、PPAにより復活か

2019年2月4日付の報道によると、補助金（FIT-CfD）の契約獲得失敗により建設が断念されていたスウォンジー潮汐発電（Swansea Tidal Lagoon）計画について、開発事業者（TLP：Tidal Lagoon Power社）が補助金なしでの計画の再開を試みている。同計画は当初、約150ポンド（約2万2,000円）／MWh（30年間）の買取価格を希望し、建設費約13億ポンド（約1,900億円）をかけて人工湾を造り、予測可能で安定的な再エネ発電設備を設けるとしていたが、費用対効果に見合わないとして、政府が2018年6月にFIT-CfDの対象としないことを発表していた。しかし、その後英国の原子力発電所建設計画が相次いで中止や凍結に至ったことから、原子力以外の低炭素電源の需要が高まっていると見たTLPが、今回、同計画の再開方針を示した。同社によると、補助金に代わって長期売買契約（PPA）の締結を年内に図り、2020年初には最終投資判断を行い、2025年までの発電開始を目指すとしている。PPAにはスウォンジー近郊の空港や複数の企業が興味を示している。